

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style [ビズスタ東京]

2018 09

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島、岡山にて68万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社ティクススポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
©2018 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD

ここはいつでも、楽園。

日本からは、直行便でわずか約8時間。
「天国からいちばん近い島」ことニューカレドニアの魅力。

© Valentin Coutaz / NCTPS



特集 実は「日本人のロングステイ先」として最適!? 隠れた親日の地・ニューカレドニアのポイントをコンパクトに学ぶ。

© Ethnotrack / NCTPS

© Little Gypsy / NCTPS

My Favorite Life Style

© Terres de lumière / NCTPS
イタリアの名建築家、レンゾ・ピアノ氏による建築デザインも見どころ



© Show Takano
そば粉のガレットも本場の美味しさ



© Ethnotrack / NCTPS
数十メートルにもなる木生シダが成る自然保護区「巨大シダの森公園」



© Terres de lumière / NCTPS
離島のイル・デ・バンでは、メラネシアの伝統帆船ピログに乗るツアーも



© Terres de lumière / NCTPS
アンスパタのホテルから望むラグーン

ロングステイで存分に楽しむ、楽園・ニューカレドニア。

森村桂氏のベストセラー旅行記「天国にいちばん近い島」で日本でも広く知られるようになったフランス領ニューカレドニアは、オーストラリアの東に位置する。日本から首都ヌメアには直行便が就航しておりフライトは約8時間。時差もわずか2時間と小さいので、あれこれと調べると、改めて「こんなに近かったのか」と驚かされる。

ニューカレドニアと言えは、世界中の観光客を虜にする素晴らしい海。2008年に世界自然遺産に認定されたラグーンは約1600種と世界で2番目の長さのバリアリーフに囲まれ、約2万3400種にも及ぶその面積は世界最大だ。

当然のことながら海洋種の宝庫であり、実に世界の5%ほどにあたる約1万5000種が生息するといふ豊かな生態系を形成している。絶滅が危惧されるシロゴンやウミカメが生息していること知られ、ゾウクマンダやクシラ、イルカなど多種多様な海洋生物に出会える。

これだけの海を有しているのは、マリンリゾート辺りとなりそうなのだが、実はそこはさえない。ニューカレドニアは都市と自然の魅力を得ているのだ。

海国としての短期旅行だけでなく近年はロングステイでも人気

実際に訪れたことがある旅行者たちは、「短期の旅行だけでなくロングステイにも向いている」と口を揃える。滞在中の楽しみ多さを指しているのだが、加えて治安のよさも好感印象の要因になっているようだ。

穏やかで優しい人が多いという国民性もあるのだが、特に日本人旅行者は歓迎されるという。彼らは、基幹産業である観光業の発展に日本人が深く

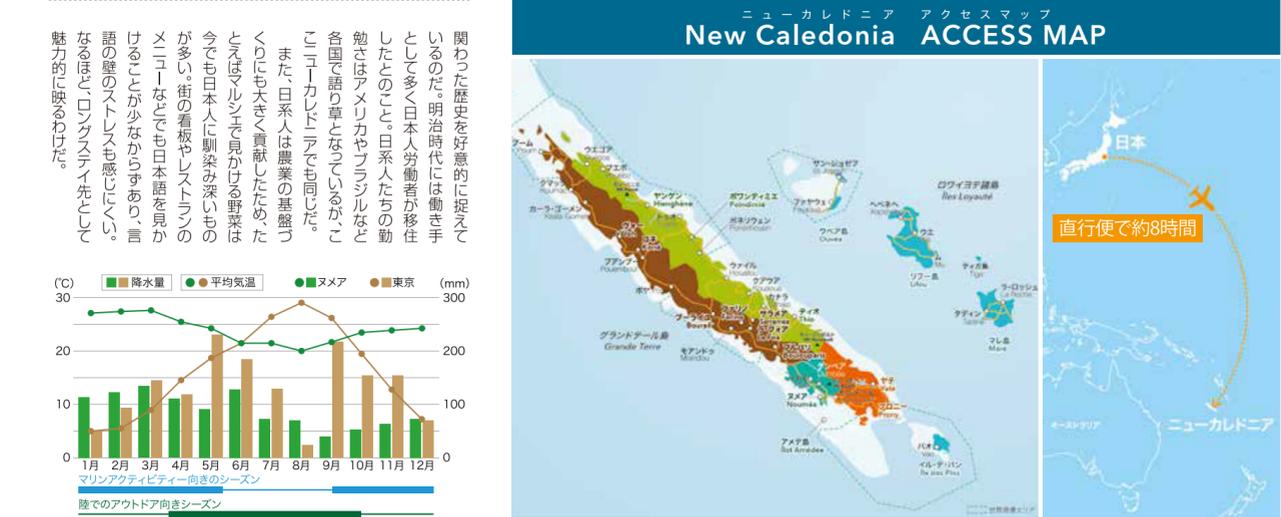
もひとりの理由が、毎日の快適さだ。キッチンと洗濯機付きのホタルが多いので、「朝イチでマシエブー・フンシエー」に出かけて買い込んだ食材を手早く調理し、海に面したラヌス・プランチを楽しむという憧れのシーンが現実になるのだ。もちろん、フランス領としての食文化も花開くヌメアでは、多様なレストランでの外食も満喫したい。チップ不要の気軽さも魅力だ。

さらに、医療サービスの面も心配なし。救急医療診療体制はフランス本国と同水準と言われており、現地の日系オペレーターによる日本人向け医療ランゲージサポートがあることで、こちらも言語の不安はないだろう。

旅行先としての様子を学ぶつもりが、むしろ移住のための情報に見入ってしまうニューカレドニア。日常生活の利便性を確認できたところで、ロングステイ派の最大の理由となる「楽しさ」について簡単に紹介しよう。

夏も冬も暑もひどいばかりの圧迫的な気候、マイマイの数々

ニューカレドニアの地図を開いて眺めていると、実は意外に広いイメージが湧く。本島はエニアニと



に、そして離島部では島ごとに異なる特徴を備えており、体験できるアクティビティも実に多彩だ。中長期の滞在なら、最初からレンタカーであちこち見てまわりたいから地域の特徴をつかむとよいだろう。

まずは旅の滞在拠点となる首都ヌメアを歩いてみよう。南太平洋最大の都市であり、豪華クルーズ船も頻繁に入港するヌメアは、現地の人々や多くの観光客を賑わす。楽園系島ならではのスロースタイルな雰囲気、心当たりが、街を歩くと、フレンドリーな洗練された生活文化が浮かぶように共存していることに気が。南仏の港町を思わせる質感をまとうという点で、他のビーチリゾートには線を画している。

海はもちろん「完璧」と評価したくなる楽園クラス。自然環境がしっかり維持されている点は、さすがに天国にいちばん近い島だ。10月から4月のシーズンは、マリアクティビティが本番の季節。シュノーケリング&ダイビングからワインディング&カイトサーフィンまで、種目は何でもござれだ。なお、ウィンドサーフィンは隔年でワールドカップが開催される「聖地のひ

とつ。また、ジェットスキーは免許不要なので、憧れる方はぜひお試してみてください。

季節感とは日本と逆になるのだが、5月か6月の月何を楽しめるのか。実は「山や森の季節」なのだ。馬場を駆け抜け海岸へと繰り出すホーストレッキング、ラグーニングも堪能できるコルルやハイキング、そしてカヌー&カヤック。これもヌメアを拠点として気軽に楽しめる。

インドア体験にも魅力が満載だ。ニューカレドニアラグーン水族館は、世界で初めて生きた化石オオソウオウの飼育に成功したことで、脚光を浴びたが、ほかにもユカマヤナポリオン・ハンジユ、光るサンゴなど、現地の生態系を凝縮した世界が楽しめる。また、海洋博物館には、あの森村桂氏がヌメアを訪ねた際に記したビクターブックが展示されている。現地の文化を深く知るなら、チハウ文化センターやニューカレドニア博物館、ヌメア市立博物館へ。メラネシア系先住民族であるカヌカの伝統文化を学ぼう。

最後にひとこと。滞在中の楽しみは、観光客の多くは、ヌメアからバスで10〜15分ほどの場所にあるアンスパタ地区に滞在する。このビーチはサンセットの美しさが際立っており、無人島のカナル島にもタクシーポイントからバスで渡れるので、リゾート派には特におすすめだ。

近年は、語学留学でロングステイを楽しむ旅行者も多いという。ヌメアには政府運営のものを含むフランス語の語学学校が2校あり、目的別&レベル別のクラスが1週間から受講可能。ヌメアで使われるフランス語には訛りもな、フランス本国と遜色ない学習ができる。現地の言葉も少しも習得すれば、滞在の楽しさもさらに広がるに違いない。



© GLP hotels New Caledonia / NCTPS
アンスパタにある「ヒルトン・ヌメア・ラ・フロムナード・レジデンス」の客室キッチン



フランス語学校「クレバック」の授業風景

My Favorite Life Style

© Terres de lumière / NCTPS



ブーライユ・デヴァ地区の隠れ家的リゾートホテル「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」。リゾートファンのみならず、ゴルファーにもぜひ滞在をおすすめしたい。



© Ethnotrack / NCTPS



© NCTPS



© NCTPS

「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」の本格リンクスは、巨匠ピート・ダイ率いるダイ・デザイン社が設計。初心者から上級者まで楽しめる。

カナック(メラネシア系先住民族)の伝統家屋をモチーフとしたデザインが美しい「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」。

ここでは世界遺産のラグーンを満喫できる「グラスボトムボート」も人気。ウミガメとの遭遇率も高い。

ヌメアを拠点に、魅惑の島々や街へも足を延ばす。

さて、日本からニューカレドニアへは、エア・カレドニア・インターナショナル航空(エア・カラン)で。成田から週5便(月・水・金・土・日)の直行便が就航中。機内食は特にワインのセレクションが有名で、現地食材のフレッチも好評だ。

都会的な快適さと大自然の魅力にあふれるニューカレドニアでのロングステイ。語学留学からセカンドライフまで幅広く対応してくれるので、ぜひ検討を。

離島ではないが、この楽園の美に包まれてゴルフを楽しむなら、ヌメアから車で3時間ほどのブーライユにある「シェラトン・ニューカレドニア・デヴァ・スパ&ゴルフリゾート」は外せない。世界遺産のラグーンに隣接するチャンピオンコースでのプレーは、ゴルファーなら一生の思い出になるはずだ。

映画版「天国にいちばん近い島」のロケ地として有名なのは、ウベア島だ。こちらも、約25kmにわたる白い砂浜とエメラルドブルーの海が、まさに「楽園そのもの」という風景美を展開している。時間や場所によって海の色もさまざまに変化し、フォトジェニックな表情を見せてくれる撮影スポットでもある。インスタ映える旅行写真が欲しいなら、ホテルに宿泊の上で時間を気にせず撮り歩きたい。

せっかくの滞在なら、離島や少し離れた街へも足を延ばしてみたい。まずは、イル・デ・パンだ。ここはコーラルラグーンが連なり、「海の宝石箱」と激賞される島。ヌメアから飛行機で25分ほどなので日帰りでも楽しめるが、やはり一度は宿泊すべきだろう。世界で最も細かい砂と称される白い砂浜と、紺碧の海。そのコントラストは、筆舌に尽くしがたい美しさだ。

ニューカレドニアへは エア・カランが直行便を運航



成田発着は通年週5便(火・水・金・土・日)、最大時は毎日運航。関空発着は週2便(月・木)がある。受託手荷物はエコノミークラスで1個23kgまで無料だが、そこにゴルフバッグなどスポーツ用品も1個23kgまで追加無料(要事前申請)。詳しくは下記ウェブサイトまで。
www.aircalin.com

ニュースレター登録で往復航空券が当たる!

特別価格キャンペーンなどのお得な情報を配信するエア・カランのニュースレターにご登録いただいた方の中から、抽選で1組2名様に日本〜ニューカレドニアの往復航空券をプレゼント!ご登録は右記QRコードからどうぞ。



応募期間: ~ 2018年10月19日(金)

※当選発表は当選者への連絡をもって代えさせていただきます。



ビズスタ特典

ニューカレドニアの特産品「天使のエビ」 プレゼント・アンケート実施中!

応募期間: ~ 2018年10月28日(日)

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で10名様に、「天使のエビ(1kg)」をプレゼント!
詳しくは右記QRコードからどうぞ。

※当選発表は当選者への連絡をもって代えさせていただきます。



ニューカレドニアのさらに詳しい情報は
ニューカレドニア観光局ウェブサイトにて
www.new-caledonia.travel

